

〔東雅九器用〕桴筏イカダ略○中 イカダの義不詳古語に、大きなるをいひて、イカといふがごとくに、これもまた竹木を編む事、大なるによりて、イカタといひしも、薄而長をか

〔倭訓栞前編三〕いかだ 倭名鈔に、桴筏をよめり、舩艘も同じ、鳥賊手の義成べした、むいかだとも、いかだの床ともいへり、いかだしは、筏さす人なり、

〔延喜式木工三十四〕桴擔

楹樽五十材、各長一丈二尺、積一十二万材、簀子卅五枚、各長二丈一尺、積一十万七千六百材、七八寸桁八枚、各長二尺、積九万八千四百材、各爲一桴、自餘雜材、大者准七八寸桁、小者准簀子、

〔日本書紀二十五〕白雉四年七月、被遣唐使人高田根麻呂等、於薩麻之曲竹島之門、合船没死、唯有五人、繫智一板、流遇竹島、不知所計、五人之内、門部金採、竹爲筏、泊于神島、凡此五人、經六日六夜、而全不食飯、於是褒美金進位給祿、

〔續日本紀十三〕天平十二年十月壬戌、大將軍東人言、逆賊藤原廣嗣率衆一万許騎、到板櫃河、廣嗣親自率隼人軍爲前鋒、即編木爲船、將渡河、

〔續日本後紀五〕承和三年八月戊戌朔、大宰府馳驛奏遣唐使第三船水手等十六人、駕編板漂著之狀、己亥、勅符遣唐大使藤原朝臣常嗣省、大宰府去月廿日飛驒奏言、第三船水脚十六人、編板如桴、駕之漂著對馬島南浦、

〔享祿本類聚三代格十八〕太政官符

定歩板簀子丈尺事

右被右大臣宣稱奉勅、今聞頃年之間、百姓賣買件二色材、並短薄而不便構作、宜仰所出國、自今以後、長者桴孔之内、必得二丈、厚者歩板二寸五分、已上、簀子方四寸、作令賣買、左右京職、勝示街衢、嚴加禁